

Title	明治維新史講話(藤井甚太郎著, 雄山閣発行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.4 (1926. 11) ,p.168(628)- 168(628)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0169

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

るアイヌの諸道具・衣類・その他風俗に關する品々が、現實のアイヌ生活と非常に遠ざかつてゐるほど、それほどアイヌの生活が變化したことを夫々の例證をもつて説かれたもので、なほ同氏の『白老コタンのアイヌの生活』と題する活動寫眞の説明、及び伏根弘三氏の『アイヌ生活の變遷』とともに、アイヌの生活に關するものであり、最後にジョン・バチラー氏は『アイヌ語の本質』に於いて、地名や、植物、動物、魚類の名稱を分析し、その意味、組立などを説明した。講演者は、いづれも、アイヌ研究者の權威、もしくはアイヌ自身であるから、その講演が、興味と示唆とに富めることはいふまでもない。要するに、わが日本民族構成の一要素であり、現在世界の民族研究に、重要な地位を占むるところのアイヌに對して、新に研究の刺戟を與へられた啓明會の企に、吾々は感謝するとともに、更にわが領内に於ける異民族として、當然吾々の研究に入らねばならない臺灣の生靈に對しても、同様の企の實行せられんことを希望してやまない。(松本芳夫)

明治維新史講話

藤井甚太郎著
雄山閣發行

本書は、現に、維新史料編纂官として、同事務局に於て、その史料の編纂に従事して、重要な新史料を手に入れられたる機會多く、又京都大學文學部講師として、維新史の講座を擔任し、多年の研究を講述せられる著者が、さきに、大正十三年山口縣下に於ける講演會にて、明治維新史を講演せられた節の講本に、若干の筆鉞を加へて、印行せられたものと云ふが、同史の概要を極めて

明確に説述せられたもので、同種著書中異彩ある良著で、筆者の如きは、本書によりて啓發せられたる處多く、著者に滿腔の敬謝の意を表呈するものである。

著者は、維新史の區劃時代に關して、種々の點より考察して、嘉永六年、米國水師提督ペリー渡來より、明治四年廢藩置縣に至る十八年間を以て、本紀の時代と定め、前後數年間を前期の時代後期の時代と心組して説述せられて居る。本書は、第一社會組織——第二幕末時代の諸思想——第三社會缺陷と社會變革の兆——第四社會動因の續出——第五諸勢力の分離——第六諸社會の參政と安政の大獄——第七諸勢力分散の初期——第八政權分離——第九統一運動の傾向——第十明治社會の消極的成立——第十一明治社會の積極的發達——第十二明治初期の社會現象——の十二編に分つて演じ、これを更に章節に細別して説き、外に緒言と結論、並に第十三編の年表が附せられて、その論述せられる處は、従前と異なる點もあり、興味を深からしめるものである。

筆者は、本書一讀の節、一つ物足りぬと思つたものがあつた。それは、同史上重要人物の筆跡、或は肖像の類の挿入で、若しそれが若干適所に挿入してあつたならば、筆者のみならず、一般讀者も亦同様に一層興味と參考を與へられる事がまた少くなかつたと思ふ。

要するに、本書は、菊版三百余頁の手ごろな本であつて、維新史研究者は勿論の事、この時代の歴史に興味を抱かれる文藝方面の士にも、亦一讀の價値ある著書として推奨したいと思ふ。(武田勝藏)